

雪氷写真館 ⑪⑦ 立山連峰の多年性雪渓と氷河の消耗, 2016 年 10 月 / Ablation of perennial snow patch and glacier in the Tateyama Mountains, October 2016



写真 1 劔沢雪渓の様子.

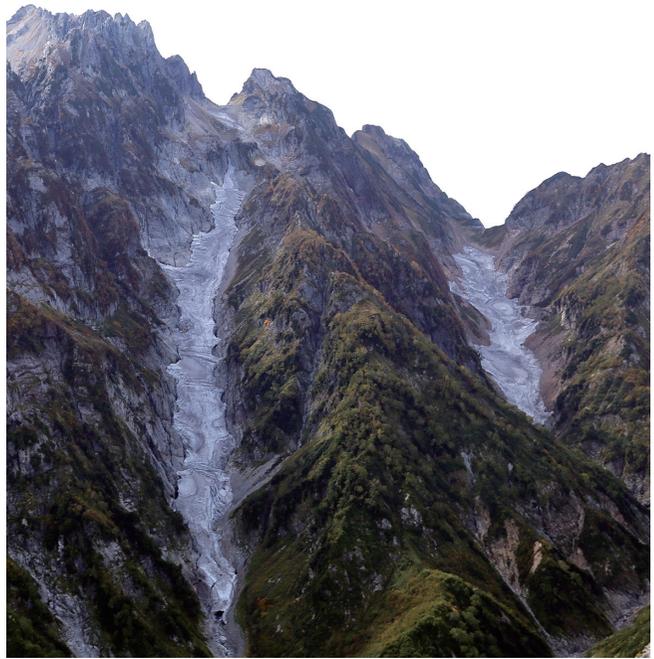


写真 2 三ノ窓氷河 (左) と小窓氷河 (右) の様子.



写真 3 内蔵助雪渓表面の融水水流.



写真 4 内蔵助雪溪に出現したムーラン。



写真 5 内蔵助雪溪のムーラン内部。

立山連峰の多年性雪溪と氷河の消耗, 2016 年 10 月

2016 年 10 月 7 日に、北アルプスの多年性雪溪の分布を調べるために空撮を行った。冬期がまれに見る寡雪だった影響で、どの雪溪も記録的な残雪の少なさで、雪溪が分断されたり消失したりしていた。写真 1 に劔沢雪溪の様子を示す。通常は連続した大雪溪で登山道として利用されているが、2016 年は崩落が激しく分断されて通行が困難だった。しかし、下部に厚い氷体を持つ三ノ窓氷河や小窓氷河の面積はあまり縮小しておらず、表面には氷体が露出しクレバスやムーランが分布していた(写真 2)。昨冬の積雪は消失したが、氷体が露出して融雪を制御していたと考えられる。一方、内蔵助雪溪でも氷体が露出し表面に融氷水流が出現した(写真 3)。また、深さ 20 m のムーランが 15 年ぶりに出現して(写真 4)、ムーランに潜っての氷体調査を実施することができた(写真 5)。

飯田 肇・福井幸太郎(富山県立山カルデラ砂防博物館)